

成果の説明書

(氏名) 熊澤利和	(学部) 地域政策学部
<p>1 重要事項</p> <p>1) 成果説明 (大要)</p> <p>(1) 【教育、研究、社会貢献等の分野】</p> <p>令和2年度(2020年度)の【教育、研究等】の分野に関する成果は、以下に集約される。</p> <p>a) 【教育・研究】に関して、本年度は、下記の三点について重きを置いて行った。</p> <p>①当初A県のがん専門病院の医師・看護師を対象に、患者の意思決定を支援する際に、医療者が「なに」を重視し行動するかファセット理論に基づく仮説検証とAPCに関する認識の現状を把握するためのアンケート調査と分析を行う予定であったが、新型コロナウイルスによるパンデミックにより、当初、予定をしていた研究計画から変更・中止にせざるを得なかった。</p> <p>そのため、B県の市立高校の生徒を対象として、高校生が、生活習慣病やがん予防に関して、どのような考えを持っているのか等について明らかにする目的アンケート調査を実施した。この調査は、共同研究者の佐藤公俊、森田稔と調査設計から調査の実施、集計および分析まで行った。</p> <p>②オーストリア、アイルランド等における意思決定の関連法に関する文献研究は、共同研究者の谷口聡により行われ、研究チームに対する連絡・調整を行ってきた。</p> <p>b) 【研究報告】については、下記のものを示した。</p> <ul style="list-style-type: none">・熊澤利和 森田 稔 「終末期医療・ケアに関連する一考察」『地域政策研究』23-4・谷口 聡 アイルランドの意思決定支援法 2015 における「事前のヘルスケア指示」の検討『高崎経済大学論集』,63(1),41-71 (2020-07-31) <p>c) 【学会報告等】</p> <ul style="list-style-type: none">・青木 茂 丸田秋男 渡邊敏文 熊澤利和 地域福祉計画策定の意義と今後の展望—日本地域政策学会地域福祉計画部会の実証的研究プロセス— 2020 年度第 19 回全国研究大会・熊澤利和 森田 稔 アドバンス・ケア・プランニング (人生会議) に関する社会科学系大学生の認識 2020 年度第 19 回全国研究大会 <p>なお、全国大会は、covid-19 感染拡大のため Web 開催となった。</p> <p>d) 【地域貢献/社会貢献活動】</p> <ul style="list-style-type: none">・covid-19 感染拡大のため関係している団体の事業が縮小された等ため特に報告はなし。 <p>e) 【学会関連】</p> <ul style="list-style-type: none">①仏教看護・ビハーラ学会監事及び編集委員 (令和元年 9 月 1 日～令和 2 年度)②大正大学社会福祉学会事務局長 (継続) <p>(2) 【学内業務の分野】</p> <p>学内業務の分野では、</p> <ul style="list-style-type: none">①図書館長として、学内の図書館を通して学術情報に関する運営にあたった。また教育研究審議会のメンバーとして大学全体の運営に図書館長として携わった。	

特に covid-19 感染拡大に伴い、図書館の利用について職員との連絡調整を行いながら、下記の点について実施してきた。

- ・感染症予防を踏まえて、図書館職員および関係部署との連絡調整により、円滑な図書館運営を行った。
- ・図書館の事業でオンラインへ移行することが可能な事業は、オンラインで実施した。Teams を活用し、図書館の利用方法、文献検索等、ビデオ作成を行って視聴ができるように行った。同時に、図書館と情報基盤センターとの連絡調整により円滑な図書館運営を行った。
- ・図書館と保健室との連携を行い、利用者に対して感染予防行動を促すための働きかけ等を行ってきた。

②covid-19 感染に関しては、学生部長、国際交流センター長と、密に連絡をとり情報交換を行い、図書館運営に反映させてきた。

③入試課題検討委員会として入試制度についての検討等に携わった。

2 その他の事項

- ・今年度は、特に Zoom、Teams 等のオンラインによる授業・演習を実施してきた。学習を促進できるようなツール利用の工夫を行ってきた。次年度は、マニュアルからではわからない、授業・演習に対する利用方法を発展させたいと考えている。

3 次年度以降の計画・抱負

①パンデミック下において、教育・研究活動について

- ・研究活動は、医療者に対する研究は、covid-19 感染状況を確認しながら継続できるよう考えている。ただし、今年度、アンケート調査の実施結果を踏まえて、高校生に対するがん教育について並行して研究を進めたいと考えている。理由は、中・高校生のがん教育が開始されたこと、これまで研究として探求してきた「意思決定支援」というキーワードから考えて、高校生のがん教育が重要なこと、さらに高校と大学との連携によるがん教育を展開する可能性を探る必要があると考えている。
- ・この数年間の調査研究、文献研究等を元に論文として報告できるようにしたいと考えている。